

氏名	出 宮 一 徳
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 271 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和43年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	精神病者の間脳，下垂体，副腎皮質系機能及び前頭葉関与に関する研究 1. ACTH負荷試験を中心として 2. メコリール試験を中心として
論 文 審 査 委 員	教授 奥村 二吉    教授 西 本    詮    教授 大 藤    真

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

内因性精神病の間脳・下垂体・副腎皮質機能に関する研究の一端として，前頭葉が内分泌機能並びに自律神経機能にいかに関与するかを追求すべく，前頭葉切截術を受けた分裂病患者にACTH試験とメコリール試験を行なって施術していない分裂病と比較した。

1. ACTH試験で血中17・OHCSは，非ロボトミー群で皮質予備能の減少傾向を示し，ロボトミー群では，皮質予備能の減少の上に，対ACTH反応態度に異常を認め，血中総コレステロールはその増加が血中17・OHCSの減少態度と対象的な所見を示した。
2. メコリール試験の結果，ロボトミー群において反応性の低下並びに遅延がみられ，同一病態像ではメコリール反応型とコルチコイド像との間に明白な相関は認められなかった。
3. 総合的にみれば，慢性分裂病群は間脳・下垂体・副腎皮質系機能でACTH刺激に対して反応性減退傾向が存し，測定値の分散は正常者に比して大きく，ロボトミー群は更にこの傾向が増強されている。前頭葉切離は内分泌中枢の緊張機構に欠損的平衡状態をもたらしているが，一旦強い刺激が負荷された場合にはその平衡に乱れを生じ，内分泌リズムの急性動揺が起る。

(昭和42年12月岡山医学会雑誌第79巻第7, 8号掲載)

## 論文審査の結果の要旨

前頭葉切除術を受けた分裂病患者に ACTH 試験とメコリール試験を行なった結果の報告であって間脳・下垂体・副腎皮質系機能の反応性がロボトミーによって更に減退していることを見出している点、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。